

# 化学分析棟の拡張について

2023年8月10日

---

東京電力ホールディングス株式会社

## 【背景】

- 現行の化学分析棟では、**空気中トリチウムによる分析への影響**が判明
  - ・ 魚類分析では、試料を凍結乾燥させ、粉碎後、燃焼容器に詰める工程で空気中のトリチウムを取り込むことが判明（2022年12月）
  - ・ 化学分析棟内の空気中トリチウム濃度は一定ではなく、処理水の分析等により建屋内の濃度は大きく変動することを確認（2023年5月）
- 空気中トリチウムの影響を排除する対策として、既存の空調能力を低下させない設計範囲内で工業用除湿器を設置したが、必要な効果は得られなかった。

## 【化学分析棟の拡張】

- 上記課題への対策として、**化学分析棟を拡張しトリチウム低減エリアを設ける。**
  - ・ 拡張部にトリチウム対策を施した空調設備を設置
  - ・ 拡張部に極低濃度のトリチウム分析機能を集約

## 【実施計画の扱い】

- 化学分析棟の拡張では、実施計画の変更は行わない。

- 実施計画における化学分析棟の記載は下記参考のとおり。
- 今回の拡張は化学分析棟の設置目的および機能に変更なく、増床を目的とするものなので記載の変更は必要ない。

### <参考：実施計画抜粋>

#### Ⅲ-3-3-1-2-13

##### b. 試料分析関係設備

各系統の試料等の化学分析及び放射能測定を行うために、津波・地震等による被害が比較的軽微であった5, 6号機及び環境管理棟の設備を使用する。なお、化学分析設備の分析スペース及び放射能測定設備が足りず試料の適時処理ができない、放射能測定設備のバックグラウンドが高く低放射能濃度試料の測定ができない状況のため、**化学分析棟を設置**するとともに発電所構外でも試料分析を実施している。

##### (a) 化学分析設備

放射線レベルの低減、空調設備の復旧及び分析設備の健全性確認を行い、既存の化学分析設備を使用する。なお、放射線レベルが震災前の値に戻っていないこと、分析スペースも足りないことから、**新たな化学分析設備も設置**する。